

2021年度

現代社会学会主催講演会

# アフガニスタン・シリアを取材して

「テロとの戦い」を見つめなおす



【学生】2021.10.22(Fri)17:15~18:45 リモート(ZOOM)開催

一般 Web 公開  
オンデマンド配信 2021.11.1~11.30

youtube「神戸学院大学現代社会学部チャンネル」

無料



## 西谷 文和 氏



1960年京都市生まれ。立命館大学中退、大阪市立大学経済学部卒業。  
吹田市役所勤務を経て、2004年末からフリージャーナリスト。  
主にイラク、アフガニスタン、シリア、南スーダンなど中東・アフリカ地域を取材し、テレビや新聞で現地情報を伝えている。  
テレビ朝日系列「報道ステーション」、朝日放送「キャスト」、ラジオ関西「ばんばんのラジオショー」など出演多数。  
2019年5月から「路上のラジオ」をネット配信している。  
著書に「ボンコツ総理スガーリンの正体」「戦争はウソから始まる」(日本機関紙出版センター)「テロとの戦いを疑え〜紛争地からの最新情報」「西谷流地球の歩き方 上・下」(かもがわ出版)などがある。

主催：神戸学院大学 現代社会学会  
後援：神戸学院大学 現代社会学部

問合せ先：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス  
〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3  
TEL:078-974-4206

 神戸学院大学

## 現代社会学会主催講演会

### 「アフガニスタン， シリアを取材して — 『テロとの戦い』 を見つめなおす—」

講演者：ジャーナリスト 西谷文和氏

日時：2021年10月22日（金）17時15分～18時45分

会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパスD号館アクティブスタジオ 及び  
Youtubeliveにて配信



#### プロローグ

アフガニスタンが今どうなっているのかをお話します。アフガニスタンですずっと戦争が続いていることを聞いたことがあると思います。私は合計11回アフガニスタンに行っており、「普通の人がどんな生活をしているのか」ということについて撮影してきました。

アフガニスタンは、この40年間、戦争をしてきました。アフガニスタンの多くの人々は1日2ドル以下で生活する貧困層で、日本のように、平和に学校に通えることはできません。学生の半分ぐらいは学ぶことができていません。アフガニスタンは女性が最も差別されてる国の一つで、女の子は学校に行かせてもらえません。アフガニスタンは水道がないので、女の子が遠く離れた井戸まで水を汲みに行かないといけませんし、ガスがなく、冬は $-10^{\circ}\text{C}$ ぐらいまで冷え込みますので、昼間のうちに薪を拾っておかなければなりません。そのため、学校に行けないのです。一番しわ寄せを食らうのは子ども達です。

## 中村哲さんのこと

アフガニスタンに住み込み、アフガニスタンの人々を食べさせ、豊かにすることで戦争を防ごうとしていた日本の方がおられます。中村哲さんと言います。11年前にたまたま私はこの中村さんに会いました。この時、中村さんは砂漠に用水路を引き込む工事を行っている最中でした。2年前に中村さんは何者かに殺されました。その後この用水路がどうなっているのか知りたかったため、去年アフガニスタンに行きました。

中村さんは、砂漠に用水路を引いて、小麦や米を栽培し、人々の暮らしを豊かにしてきました。一方、アメリカは、テロという暴力に対して戦争という暴力で抑え込もうと、20年もの間、アフガニスタンに2兆ドル（約220兆円）を使い、沢山の人の命を奪ってきました。しかし、アメリカは抑え込むことはできなかったわけです。それを中村さんはわずか20億円ぐらいで、何十分の一、何百分の一のお金で平和を勝ち取ったのです。

取材したカブールとかジャララバードという街では、外へ出るのは危ないので車の中から撮影をしました。しかし、中村さんの作られた用水路の地域は皆笑顔なのです。落ち着いていて、平和なので、車から降りて十分に取材することができました。

どっちのやり方が正しかったのかということは、もうほぼ答えが出たのではないかと思います。

## タリバンの復権

しかし、カブールでタリバン政権になったことで、大変なことになってしまいました。2021年の春からタリバンとアフガニスタン政府が各地で内戦をしていました。首都カブールは大丈夫だということで多くの人々が各地から逃れてきており、2021年の8月まで中学校の中庭や国道沿いの空き地には野宿する人で溢れていました。ところがそのカブールがあっけなく陥落したので、人々はパニックになったわけです。

特に、「アメリカ軍に協力した人は殺される」という噂が立ち、カブールの国際空港に飛行機に乗って脱出したい人々が押し寄せました。空港に入る検問所のところには壁があり、その壁を乗り越えないと空港に行けないのですが、アメリカ兵がその壁の上から乗り越えようとする人々を「帰れ！」と棒で突いていました。それをくぐり抜けて、運よく滑走路になだれ込んだ人達が、「飛行機を飛ばせ！」と飛行機の天井に乗ったりエンジン中に座ったりしました。その後、アメリカ軍の飛行機に二人の若者がつかまっていたにも関わらず離陸し、二人とも落ちて死んでしまいました。また、空港のロビーに赤ちゃんが捨てられたりもしています。アメリカやイギリスに亡命したいけれども、赤ちゃんが邪魔になってしまったということもありました。昔、日本でも終戦の際に、中国の満州で、殺されることを恐れて日本に帰還しようとした日本人が子どもを置き去りにしました。いわゆる中国残留孤児ですが、21世紀にもこんなことが起きているのです。

空港に入れろと暴動が起き、アメリカ兵は空に向かって威嚇射撃をしていましたが、最終的には5人の若者が撃たれて死んでしまいました。空港の中に入れなくてパニックになった時に、スマートフォンで撮った映像があります。この映像では、タリバン兵なのか分かりませんが、アフガニスタン人が撃ち殺されました。

次に起きたことは、カブール市内で少年がゴミを食べていたり、子どもたちがお腹をすかして倒れていたという大変な状況でした。今一番大きな問題は、この子どもたちがこの冬を越せる

かということです。日本から支援のお金を送り、炊き出しの焼き飯を配っていますが、子どもが「ちょうだいちょうだい」と言って集まって来ていました。かなりお腹を減らしていると思います。

その炊き出しを待っている女性ですが、アフガニスタンの民族衣装のブルカというのをかぶっています。これをかぶらないとタリバンに罰せられます。つまり、女性は顔を出してはいけない社会になってしまいました。

## シリアについて

アフガニスタンに加えシリアにも行ってきました。シリアは中東のほぼ真ん中に位置する、日本と同じくらいの面積の小さな国です。北にトルコ、東にイラク、南にヨルダン、イスラエル、レバノンに囲まれています。ここでも大きな内戦がありました。

シリアの歴史は非常に古く、メソポタミア文明が起こった所です。文明は古いのですが、国は新しいのです。100年前まではここはオスマントルコという国がありました。オスマントルコはドイツと組んで戦争して、イギリスとフランスとロシアに負けました。大きなオスマン帝国が戦争に負けたので、勝ったイギリスとフランスが勝手に国境線を引いて、イギリスはイラクとヨルダンとパレスチナを取り、フランスはシリアとレバノンを植民地にしたのです。南側をイギリス、北側フランスが取ったのでこの辺りの国境線まっすぐなのです。この時、イギリスは非常にずる賢かった。

イギリスはパレスチナ(イスラエルともいいます)を占領した時に、この地にたくさん住んでいたアラブの人たちにここにアラブの国を作っていいよと許可を与えました。その一方で、世界中に散らばって住んでいたユダヤ人に対しても、ここに集まってきてイスラエルという国を作っていいよと、こちらの方にも許可したわけですね。それによってアラブとユダヤの人たちが仲良く暮らせなくなり、中東戦争へと突入することになったのです。この戦争は今も続いています。例えば、ガザ地区では非常に狭いところにアラブ人がぎゅうぎゅう詰めになって暮らしています。このイスラエルの北側にシリアという国でありまして、アサド大統領がとんでもない独裁政治をしていました。人々は自由が欲しくてデモをしたのですが、このデモをした人たちをアサドは徹底的に殺していきました。それに対して、デモ隊の中から武器を持って戦う人が出てきて、残念ながら平和なデモが戦争に発展したのです。

一番激しい戦いがあったのは、アレッポというところです。映像の中でもともとパン屋さんだったところがあります。皆がパンが欲しくて集まってくると、上空の飛行機によって空爆されたのです。シリアは人が集まると危ないのです。

ここで使われているミサイルは人工衛星がコントロールをしています。そのため、ミサイルは正確に標的に当たるのです。映像の団地が狙われた理由は、この団地に自由シリア軍の偉い人が住んでいたからです。この人の携帯電話の番号が相手側にバレてしまい、そこから位置情報がつかめるので、ピンポイントで狙ってくるのです。今の戦争はとんでもないハイテクで、ものすごいお金がかかっているのです。

## 戦争がはじまる理由

皆さんと一緒にこの戦争を終わらせるためにはどうしたらいいのか考えたいと思います。

今コロナが流行っています。コロナが収まってほしいと祈ることは大事ですけど、祈るだけで



はコロナは収まりません。コロナのウィルスは一体何者で、なぜコウモリから人間に移ったのか。こういうメカニズムが解明されるからワクチンも開発されるのです。戦争に置き換えてみたら、なぜ戦争が始まるのか、1回始まった戦争はなぜこのように拡大するのか、と考えることができます。このメカニズムがわかれば、戦争の治療法もできるのではないかと思います。

では戦争はなぜ始まるのでしょうか？宗教が違うから？領土の取り合い？おそらく宗教とか領土とかと言ったことは口実で、実際のところ戦争が儲かるからだだと思います。映像の中の団地を棟ごと潰したミサイルはロシア製で、その値段はだいたい一発5千万円から1億円です。戦車は一台10億円です。「テロリストがいるからやっつけろ！」とか、「北朝鮮がミサイルを撃ったからミサイルで撃ち落とせ！」、あるいは「中国が攻めてくるかもしれない！」というように、テレビやメディアを使って恐怖を煽ることで、戦争の流れに持っていかれる場合があるのです。

皆さんが生まれる前の1991年に湾岸戦争が起きました。実はこの湾岸戦争は嘘で始まった戦争として有名です。この戦争の直前に当時15歳の女子高校生に嘘の証言をさせ、それを全米の700ものテレビ局が一斉に報道したのです。

女子高校生の主張は、イラクからクェートに攻めた後、「クェートの病院を襲って、病院の中にある保育器に眠る赤ちゃんを一人ずつ取り出して、冷たい床に放置して312人もの赤ちゃんを殺した」というものでした。その女子高生は泣きながらそう証言したのです。それを見たアメリカ国民は、「イラクのフセインという大統領はとんでもない悪い奴だ！」と当然怒り、アメリカが先制攻撃をかけてイラクを叩き潰してしまえと戦争が始まったのです。

戦争が終わり、約1年後に、実はこの少女の発言は全く嘘だったということがバレたわけです。ひどい話です。

私が言いたいのは、戦争が多くの場合嘘で始まってしまうということです。したがって、メディアアリテラシーつまり自分で考えることが大切なのです。情報を鵜呑みにすると結果として騙されてしまう場合があるということを肝に銘じておいてもらいたい。

戦争とメディアの関係というのはしばしばこういうことがあります。今はフェイクニュースなどがあります。たとえばトランプさんがチャイナウイルスと言ったせいで、アメリカでは中国系や日系のアメリカ人が殴り殺されたりしています。そういったことにつながるので、私たちは冷静に自分の頭で判断して考えることが非常に大事になってくると思います。

## 世界に広がる格差社会

今の社会が一体どの様になっているのかということについてお話をします。

2020年世界一の大金持ちはAmazonのベゾスという人です。この人は3年連続1位で、銀行の預金、株式など20兆円持ってます。一人です。20兆円といっても、あまりピンと来ないと思います。この人が働く1時間は時給にすると4億円なのです。ものすごい大金持ちなのです。

近年、世界はすごいお金持ちと、貧しい人に分かれてきています。お見せした写真は、雪の中でお金を乞うアフガニスタンの女性とシリアでゴミを拾ってる少年です。こういう貧しい人たちが世界人口の半分の35億人いるのですが、彼らが持つてるお金と、上から数えてわずか62人の人が持つてるお金を比べると、62人の方が持つてるお金の方が多いのです。amazonのベゾスさんの銀行預金に1%の税金をかけるだけで、エチオピアという国の医療費は全部カバーできます。あるいは上位1%のメガリッチの人たちの銀行預金に0.5%の税金をかけるだけで、2億6千万

人の子どもが学校に行けるようになり、300万人の人々が飢えから救えるのです。

これだけ格差が広がった現代社会で、この貧困層にコロナが直撃してるわけです。アフガニスタンでも新型コロナが流行っていて、誰にも助けてもらえなくて、栄養失調で骨と皮だけになって、バタバタと人が死んでいっているのです。日本でもそうです。貧困なところにコロナが襲っています。そういう意味では、例えば水害や地震でもそうです。災害が起きてお金持ちは逃げることができるけど、貧しい人はそこにいるしかないのです。新型コロナも災害も平等には襲ってこないというです。本当に今の社会はかなり、歪んできていると思っていて、なんとか元に戻したいなと思っています。

### 第3の選択

ところで、ものごとの解決方法として、よく言われるのは、AかBかです。たとえば、A案が、10%の消費税を引き上げないと年金が低くなるので消費税を20%にするもの。B案が、いやそれは嫌だから消費税10%のままにしておいて、その代わりに年金が低くなっても仕方がないとするもの。AかBかどちらかという考え方です。しかし、実はAとB以外にC案があるのではないかと思います。ではC案はどのようなものかという、amazonの会長のベゾスさんに1%の税金かけることで、消費税を5%に引き下げるといふものです。そうすることにより良い社会ができるのではないかと、つまり、C案があっても良いのではないのかと思います。

ある会社が戦争ロボットを作っていて、それがよく売れて儲かったとします。しかし自分たちの作ってるロボットが人を殺してしまうわけです。だから戦争ロボットを作るのをやめるという選択もあります。しかしそうすると会社は倒産してしまいます。つまりAもBも嫌なわけですよ。戦争ロボットで儲けるのも嫌だけど、倒産するのも嫌だ。この場合Cがあると考えます。Cは、戦争ロボットができるのだから介護ロボットを作ったらよいのではないかということです。ところが戦争ロボットも介護ロボットも1台1億円したら、戦争ロボットは国が買ってくれるから売れるけど、介護ロボットは民間では買えません。そこで、政治の力を使って、国連などで「戦争ロボットを作ってはいけない」という条約を作って、介護ロボットを作る会社には補助金を出して、みんなが安く使えるようにすれば、この会社は倒産しないで介護ロボットを作れるというわけです。

皆さんが生まれる前あたりに9.11テロが起きました。その後にアメリカの大統領がテレビに出てきてこう言ったのです。「世界はアメリカにつくのか、テロリストにつくのか、どっちなんだ」と。でもアメリカについたら戦争で、テロリストについても人殺しなのです。AもBも嫌ですよ。

日本の場合はCがあったのではないかと思います。日本は平和憲法があるので、戦争には絶対に協力しません。その代わりに、たとえば、アメリカとテロリストの間に入って、「平和神戸会議をしましょう！神戸に来てください！みんなで話し合いで解決しましょう！」といったこのCがあったはずなんですけど、残念ながら世界はこのCを選ばなかったということです。

### アフガニスタンについてのエピソード

私は色々な国へ行き、「地球の歩き方」という本を書いています。そこで、行った国々のエピソードを紹介しています。その中からアフガニスタンのことについてのエピソードをお話したいと思います。

アフガニスタンのガソリンスタンドに立ち寄った際の話です。アフガニスタンのガソリンスタ

ンドではじょうろでガソリンを入れてくれるのです。アフガニスタンにすれば非常に立派な店でしたので、店長に「このお店どうやって作ったんですか」と聞きました。そうすると、店長は、アフガニスタンにいっぱい捨ててある戦車を拾ってきて半分に切って店にしたと言うのです。戦車の平和利用をしたということなのです。

アフガニスタンの首都カブールには、ずっと無人飛行船が飛んでいました。これはアメリカ軍が飛ばしているものです。今はアメリカ軍が撤退したので無いですが、少し前までありました。これを飛ばす理由は、この無人飛行船を使って市民生活を監視するためです。つまり、戦争になればプライバシーはなくなるということなのです。

アフガニスタンもイラクもラクダがいます。ラクダ売りの少年に、8歳のメスラクダ(チャタールという名前)はいくらか聞いたところ、このメスのチャタールは6万円でした。思わず買って帰ろうかと思ったのですが、買って帰ったら大変なので買いませんでした。

アフガニスタンのほとんどの人が日本のことが大好きです。その理由は、先進国で軍隊を送らなかったのが日本だけだったからです。アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、カナダはみんな軍隊を送り、殺し、殺されたりしています。そのため、日本は「(他の国々よりも)マシだ」、「良い国だ」と言ってくれるのです。また、中村哲さんによる良い印象もあります。アフガニスタンでは中古車がいっぱい走っているのですが、「あゆみ保育園」など保育園の送迎バスの日本語の文字をわざと残して走っています。

次はイラクについてです。イラクの銀行で撮影した写真に写っている男の人が持っているのは一塊で100万円です。戦争をすると何が起きるのか？戦争をするとお金の値打ちがガクンと下がり、大変不便な生活になります。100万円を持ち歩くのは大変です。

次はエジプトへ行きました。エジプトの農村で撮影した写真ですが、小さな穴がいっぱいあいています。いったい何でしょう？ヒントは有機農法です。実はこれは鳩のマンションなのです。この穴から鳩が入ります。エジプトは鳩を食べる文化です。

アフリカにスーダン、南スーダンという国があります。ここも内戦が酷かった国です。20人乗りの小さな国連機に乗り込み、ナイル川の上を飛びました。下はジャングルで、どこに降りるのか不思議に思っていました。するとパイロットが赤土の道に降りるといい、着陸態勢に入りました。しかし、飛行機がなかなか降りずに、ぐるぐる旋回しているのです。理由を聞いたたら、この赤土の滑走路の向こうにちょうど今牛の群れが横断してるから、それが全て渡り切るまで待っているのだと言っていました。

皆さんケニアのサファリに行ってみたいと思いますか？ケニアの首都ナイロビにサファリが出来ました。キリンとかライオンの後ろに高層ビルが見えるところは、世界でここだけだと思います。

アフリカのルワンダでは、今から28年ぐらい前の1994年にツチ族とフツ族という2つの民族がお互いに殺し合いをし、フツ族がツチ族を100万人殺すという大虐殺がありました。なぜこのようなことが起きたのかと思っていたのですが、ルワンダに行ってその謎が解けました。ツチ族とフツ族はどう違うのかなと思っていたのですが、このルワンダを支配したのはベルギーで、支配した時にベルギーがそこに住む人々の鼻の高さを測り、鼻の高い人をツチ族にして、鼻の低い人をフツ族にしたのです。ツチ族が大体人口の15%で、フツ族は84%です。そして、ベルギーは人口の少ないツチ族に政治をさせたのです。そうすると、フツ族はツチ族の事を恨むわけです。

その後ベルギーが去った後、今度は多数派のフツ族が政治を担ったのです。そこで民族がお互いに憎しみ合い内戦へと発展し、100万人殺されたということなのです。アフリカのルワンダで100万人が死んだと聞くと、なんとなくアフリカが野蛮だから、未開だから起きたのかなと思いがちですが、そうではありません。アフリカの人もイスラム教徒もキリスト教徒も日本も、皆平和が一番大事ですし、みんな仲良く暮らしたいと思っているのです。それが実はヨーロッパの国々が支配しやすいためにわざと民族を分けていたというのが正解の見方だと思います。

ヨルダンのお話です。ヨルダンは隣がイスラエルです。そして、ヨルダンに接しているのは、「死ぬ海」と書く死海です。何で「死ぬ海」かということ、あまりにも塩分が濃くて魚が住めない。その代わりプカッと見事に浮くのです。17年前に行って浮いてきました。当時は私は吹田市役所に勤めてましたが、当時から職場で浮いていてですね、家族で浮いて、死海で浮いたというどうでもいい話です。

ドイツの首都ベルリンでは、歩いていると、所々に「つまずきの石」というのがあります。この「つまずきの石」というプレートには殺されたユダヤ人の名前が彫り込んであります。戦後76年経っても、前の戦争を忘れないように、ドイツは工夫をしているわけです。

パリに大きなモスクがあります。第二次世界大戦中、ヒトラーはパリにまで来ました。そこでナチスは何をしたかと言うと、パリにいたユダヤ人をいっぱい殺していったのです。そこでイスラム教徒たちは、ユダヤ人の子どもをこの大きなモスクに入れて、かくまったのです。ナチスが来ると、女性の部屋にその子ども達を入れて、「ここからは女性の部屋なので入れません」と言って守ったのです。このモスクの地下にはトンネルがあって、その地下通路はセヌ川に繋がっています。子どもたちをセヌ川まで出して、浮かべておいた船の上の空のワイン樽に子ども達を入れて逃がしていたのです。

## 再びアフガニスタン

最後にアフガニスタンの話です。タリバンには武闘派と穏健派がいます。穏健派のタリバンで元外務大臣のムタワッキル氏にインタビューをしたことがあります。先ほどお話したように、ムタワッキル氏も日本を褒めてくれるのです。なぜかと言うと、日本は誰も殺していないからなのです。「日本は平和な国で良い」と言うのです。そこで私は「あなたは日本に平和憲法9条があるのを知っていますか？」と聞いてみました。すると彼は「知っている」と答えたのです。あのタリバンが、平和憲法9条が良いと言うのです。

つまり、戦争をすればお互い疲れるので、やっぱりどこかで平和的に解決したいと思ってるわけです。そんなアフガニスタンで用水路を作っていたのが中村哲さんです。だから中村哲さんに感謝しつつ、これからも取材を続けていきたいなと思っています。

## ドイツ平和村

中村さんはお米とか小麦で平和を勝ち取ろうとしました。実は平和を作る他の方法もあります。戦争で傷ついた人を助けることで平和を勝ち取れることもあるのではないかと思います。

私はアフガニスタンとドイツを3年ほど往復して、そこでの取材をもとにドキュメンタリーを作りました。ドイツ国際平和村の物語です。

映像に出てくる子どもですが、手術を3回しました。この子の太腿の皮膚を切り取って、ほっ



ぺたにくっつけたのです。また、映像に出てくる女の子は、今はドイツにいません。もうアフガニスタン帰っています。彼女は、「誰に治してもらったの？」と学校でみんなから聞かれるのだそうです。そして彼女はこう答えたそうです。「日本人のお医者さんと、ドイツ人のお医者さんと、日本人の看護師さんに治してもらいました」と。これを聞いたアフガニスタンの人は日本とドイツを大好きになるでしょうね。そこから日本とドイツとアフガニスタンに友情が芽生えて、戦争なんかしたらいけないなという思いが出てくるわけですよね。そういう意味で少しずつ平和になっていこうと思います。

ドイツの平和村には、ボランティアで日本の若者がたくさん来て、一生懸命活動をしています。日本の若者も捨てたもんじゃないなと本当に感心します。

今日はアフガニスタンとシリアの戦争、そして戦争とメディアのつながりについてお話をさせていただきます。

## 学生への言葉

最後に学生の皆さんに一言言わせてもらいたいと思います。

私は今から17年前まで公務員として吹田市役所で勤めていました。公務員を辞めて、今フリージャーナリストという仕事をしています。

私の仕事には学歴は関係なく、中卒であっても、東大、京大を出てても皆一緒です。イラクとかアフガンとかシリアとかの国へ行けばいいわけです。そういった国に行って、撮影したものを、日本でテレビなどで発表するのが仕事なので、どこの大学を出ていても同じなのです。

しかし、勉強をしておかなければいい取材にはなりません。今こうやって日本語を喋っていますが、日本語は世界では通用しないわけです。イラクに行ったら日本語しゃべるイラク人ほぼいません。私はイラク語を話せないで、そういう時には、英語をちゃんと喋られるイラク人の中で、人間的に信用できる人を通訳として雇うわけです。そして、その人を通じて取材を始めます。

例えば、片足の人がいたとして「あなたはなぜ片足になったのですか？」と聞くと「地雷を踏んだ」と言います。「それはいつですか？」「足を失って、死んでしまおうと思いましたか？」と聞くと「思ったことがある」と言ったら、「それ誰が止めましたか？」「誰があなたを励ましたか？」とこういうやり取りは非常に不便ですが英語で聞くしかないわけです。

それに気がついて、32歳の時から英語の勉強を始めました。実は私は、中学高校で英語が嫌いだったのです。難しい単語いっぱい覚えたり、長い文章を読んだりするのが嫌々やってたのです。なぜ嫌々だったのかと言うと、受験科目に英語があったからなのです。ですから、英語を中高で学んでも身につけてないわけです。

32歳の時にカンボジアに初めて行きました。飛行機を降りたら日本人は私だけで、片足の男たちが走ってくるわけです。金くれ金くれと言って、服を引っ張って、離してくれないのです。その時に、私は「あなた達はなぜ片足なんですか？」と聞きたかった。しかし、その英語が口から出てこなかったのです。悔しかったですよ。あの時にちゃんと喋れたら、もっと色んな人と仲良くなれたのと思いました。日本に帰ってきて、それから勉強を始めました。毎日15分のNHKのラジオ英会話を録音し、通勤の阪急電車で15分×2回の30分間、毎日毎日聞きました。

中学高校の時は嫌いだった英語ですが、「やってやろう！」という風に思えたので毎日毎日聞きました。英語が早すぎて、最初は全然わかりませんでした。不思議なことに半年経てば、毎日

毎日聞いていくうちに、だんだん意味がわかってくるようになったのです。1年経った頃に「ちょっと喋りたいな」と思ってきました。これを3年やりました。

英会話を勉強し始めてから3年たったころに、ちょうどその時は黒人がアパルトヘイトを覆して、黒人の大統領マンデラ氏がいた南アフリカに行ってみたくて思いました。まだ不安があったので、南アフリカに住んでいる日本人を探したところ、松島多恵子さんという女性がおられました。松島さんに電話をして、「行っていいか?」と聞いたら、「いらっしゃい」と言ってもらえたので、南アフリカの松島さんのところに泊めてもらいました。

彼女は当時黒人の夫のロドリックさんと結婚していて、2歳の男の子で松島幸太朗というお子さんがおられました。その子が2歳の時に一緒にサッカーしたったらものすごくキック力があって、相撲をしたらすごい喜んで飛びかかってくるし、「とても体の強い子だ」と思いました。その幸太朗が小学校の時に、お父さんのロドリックさんが亡くなり、松島親子は日本に来たのです。それまで松島家では英語しか喋ってないので、日本語はそこから覚えたと思います。黒人と日本人の間に生まれてるので、肌の色は黒いです。なので、おそらくいじめられたと思いますよ。ところが彼は一生懸命頑張って、高校でラグビー日本一になったのです。その後、サントリーに入社し、3年前のラグビーワールドカップで5つトライを決めました。あの松島幸太朗選手です。

私はあの時32歳でしたが、吹田市役所でずっと働いてたら彼に絶対出会えてないわけです。世界に行きたいなと思って、英語を頑張って勉強した結果、こういう出会いもあったのです。そういう意味で、勉強しておいて良かったと思います。

社会の地理だと、どの国とどの国が国境を接していて、2月の平均気温は何度まで下がるのかなどしっかり勉強しておかないと命に関わります。それから歴史ですね。オスマントルコという帝国がなぜ分割されたのか、それを知らないとイラク戦争が分からないのです。意外なところで音楽も意味があります。私はシリアに行く時には必ず兵士と一緒に入ります。シリアではホテルがみな潰されていて、ある日私は誰もいない中学校で寝ることになりました。朝起きて周りを見渡すと、燃え残ったピアノが一台あったのです。兵士たちは私に「お前ピアノ弾けるか? なんでもいいから弾け!」と言われて、仕方がないので『むすんでひらいて』を弾いたのです。すると、兵士達はとても喜んだのです。「なぜこんなので喜ぶのか?」と聞いたら、「俺たちは3年間音楽聞いていない」と言うのです。つまり、戦争になれば音楽がなくなるのです。戦争になればサッカーもバレーもバスケットもできません。戦争になれば映画も見れません。戦争になって、何も面白くない生活になっていたので、私のヘタクソなピアノでも喜んでくれたのです。そして、その日からもっと大事にしてくれました。

皆さん今色々なことを勉強していると思います。それらは絶対に無駄にはなりません。皆さんにも色々夢や希望があると思います。例えば平和村に行ってボランティアをしたいと思えば、言葉は喋れるほうがいいし、あるいは看護師や医師の免許を取って言葉を喋れば、皆さんの身につけた腕がさらに倍増していくわけですよ。

コロナで大変厳しい状況だったり、難しい文章を読んだり、勉強をすることが辛いかもしれませんが、アフガニスタンやシリアでは、大学が潰されているため大学生は学びたくても学べないのです。そういう意味では、こうやって平和に勉強ができるのは、非常にいいことだと思います。是非、今後の皆さんの活躍に期待をしたいと思っています。

## 質問

### 1. タリバン政府は女性の人権は尊重すると言っていますが、実際はどうでしょうか。

タリバンの政府の幹部は、「女性の人権は守ります」、「アメリカ軍に協力した人でも殺しません」と言いますが、現場はそうではありません。現場のタリバン兵はやっぱりアメリカに協力した人達は憎いわけです。なのでやっぱり殺されてきました。女性は、間違っただけでイスラム主義を洗脳されてる人がいます。女性が顔を出してタリバンに対してデモをしたのですが、その人たちはやっぱり捕まって刑務所に入られています。ニュースにならないのですが、おそらくひどいことをされてる可能性は高いです。ただジャーナリストが最近現場にいないので現地の様子が十分にわからないのです。

タリバンの中核は、女性を大事にすると国際社会に向けて言いますが、現場ではそうはなっていないと思います。だから、早くタリバンに対して国際社会が圧力をかけて、「人道支援の代わりに女性の人権を守れ!」「それをモニターするぞ!」「国連の監視団が入るぞ!」くらいのことをやらないと駄目だと思います。

### 2. 平和村から帰った子どもたちのその後はどうなったか?

平和村で何万人という子ども達の怪我を治していますが、アフガニスタンに帰りたくないとか、イラクに帰りたくないと言った子どもは1%もいないそうです。99.9%は、お父さんやお母さんのいる故郷に帰りたくて帰国しています。帰国後学校に通って、平和村のアフガニスタンの支部で頑張ってる子もいます。あるいはドイツに来てボランティアをしてる子もいます。平和村で知り合った子同士が結婚したりもします。平和村を経験することでドイツ語を覚え、勉強をし、色々な知識を得て大学まで行く子もいます。

平和村出身者の子どもたちが、医者や教師、弁護士になってその国の将来を背負って立っています。やっぱり平和でないと勉強できないということを彼らはよく知ってるので、感謝しつつ、平和村で感じた恩を現地で返しているのです。

### 3. お話されたように戦争に費やす技術を介護に活かしたり、平和村のような活動をするのが解決への取組みだなど思うのですが、そのとっかかりを誰がどういう風にやっていくのが良いのでしょうか?また、平和に対する理解や関心が日本は低いと思うのですが、それをどのようにしていくべきか、なんでそうなのか?

日本もそうですが、ドイツは戦争で大量の人を殺しました。それを受けてドイツの憲法には、「戦争で被害を受けた人を助ける」ということが入っていて、1966年ぐらいにドイツの若者が平和村を作ったのです。ドイツ政府も病院を無料で提供しています。そうやって平和村が成り立っているわけです。ドイツの平和村を見習って日本にも平和村を作ろうという運動があったのですが、残念ながら日本政府は病院を無料にしなかったため日本では実現できていないのです。そういう意味では、戦争に対する向き合い方がドイツと日本では、とても違って、そこが日本の遅れてるところなのかなと思います。

日本では戦争や貧困などへの関心が他国に比べて低いのではないかとありますが、確かにそう見えてしまう部分はあるかもしれません。ドイツは大学の授業料はほぼ無料です。8年ぐらい大学に通う学生もいっぱいいるのです。なので学生に余裕があるのです。東日本大震災の時に

福島原発の事故が起きた時に、ドイツの学生が「原発は嫌だ!」というものすごい運動をして、メルケルは元々止めるつもりがなかった原発を止めざるを得なくなったくらいです。そういう意味では、日本の学生はかなり余裕がない。学生のせいではなく、制度として、授業料が高かったり、3年生から就職活動を始めないといけないなど制約が多いのです。人生の中で一番学べる時に、あっという間に卒業してしまうというのは本当はどうかと思います。

実は私は大学の時に、1回中退してまたもう1回入り直して、次の大学で5年行ってますので合計6年大学に行きました。さすがに7年目の時は母が怒って、就職しなければならなかったのですが、昔は今よりも余裕がありました。もうちょっと学生時代に、余裕と言うかゆとりというものがあったらいいのではないかなと思います。

2021年10月22日